

2012 年度

事業報告書



共に生きるために

学校法人 **アジア学院**
アジア農村指導者養成専門学校

annual report

2012/4/1
～ 2013/3/31



アジア学院の 復興と 丹羽章理事長

niwa akira

副理事長

遠藤抱一

今、アジア学院は研修に必要な建物施設再建の真っ最中にあり、漸くゴールが見えて来たところでしょうか。

2年前誰がこの復興を予期し、確信出来たのでしょうか。多くの関係者が先の見えない中で、わずかに地震発生の3か月後の11年6月、丹羽理事長は、総額5億3,500万円の復興計画案を理事会に提示したのです。その後全ての復興事業は、この基本計画を基に回転し始めました。この計画があったからこそ、私達は常に何を目指し、復興のどの段階にいるのか、自分達もまた多くの支援者も正確にその過程を把握出来たのです。

丹羽理事長は良く言われたものでした。細心の注意を払って計画を立てる、それさえ出来たら後はその計画と実態とをチェックするだけで良いと。早い段階での全体計画の立案と支援者への提示。多くの個人と団体の祈りと支援を世界中から得て、思わぬ早さでアジア学院の必要は今満たされようとしています。このことを思うたびに、故丹羽理事長の全体を見通す力がなかったなら、今のアジア学院の復興はなかったという思いを強くするのです。

(作画：小嶋 歩)

目次

table of contents

1	ご挨拶	11	共同体生活
2	震災復興	12	後援会
3	放射能対策	13	補助活動
4	研修報告	14	アジア学院コミュニティ
6	カリキュラム	15	支援者団体一覧
7	フードライフ	16	会計
10	卒業生活動	back	2012年度卒業生

ご挨拶

greetings

2012年6月25日にもたらされた丹羽章前理事長ご召天の知らせは、アジア学院関係者に大きな衝撃を与えました。この状況に対処するため、当分の間私が校長と理事長を兼任することになりました。

2012年度の大きな働きは、2011年度に引続き東日本大震災に対するアジア学院災害復興への取り組みでした。災害復興募金には、国内の教会や個人はもとより、海外の教会・団体からも大きな支援を頂きました。特に、2012年度にご支援を頂いた海外の団体：米国カリタス（CRS・コイノニア棟）、米国聖公会（教室棟）、ドイツ教会災害緊急支援（DKH・男子寮）、米国長老教会災害支援（PDA・男子寮）、合同メソジスト教会緊急支援（UMCOR・男子寮備品等）、米国合同教会（UCC・グリーンオイルプロジェクト）、北米アジア学院後援会（AFARI）の皆様にご感謝を申し上げます。

福島第一原発事故によるアジア学院における放射能汚染問題についても、土壌・農作物・鶏卵・鶏肉・豚肉などの線量を定期的に計測しながら、2011年度に引続き線量を下げる取り組みを行いました。また、2012年1月より開始した一般向け食品放射能計測サービス「アジア学院ベクレルセンター」が2年目の活動に入っていることに、ボランティアの皆様の協力にご感謝を申し上げます。

農村指導者養成研修については、2011年度には新学期開始を1ヶ月遅らせて農村伝道神学校で行わざるを得ませんでした。2012年度は例年通り4月よりアジア学院で開始し、12月には全員無事卒業式を終えることが出来ました。詳細については「教務報告」をお読みいただければと願っています。

アジア学院設立当初より後援会費及び寄付金を集めてアジア学院を支えてくださった後援会は、2012年6月の総会をもって従来の後援会活動に終止符を打ち、アジア学院を様々な形で支援する人々をつなぐARISA（アリサ＝アジア学院サポーターの会）として新たに出発しました。これまで後援会を通して受領したアジア学院への寄付は、今後直接アジア学院への寄付として受け取らせていただきます。

皆様のご協力のお陰で2012年度を無事終えることが出来ました。この年もアジア学院の働きが、多くの皆様によって支えられていることを強く感じた一年でした。

最後になりましたが、様々な形でアジア学院の働きをお支え下さった皆様にご心より感謝申し上げます。

学校法人アジア学院 アジア農村指導者養成専門学校
理事長・校長 大津 健一

震災復興

reconstruction

「新しい建物は美しい—これは神さまからの贈り物。
この建物を大切に維持し、この建物を使って
最上の研修を行うことが私たちの責務である。」

荒川朋子（副校長）

2011年3月11日の地震が襲ってきた時、アジア学院の職員は4月から始まる研修の計画会議の真っ最中でした。言うまでもなくその時話し合われていた議案には、学院全体の再建計画など含まれていませんでした。しかし、その再建計画こそがその後2年間に亘ってアジア学院に起こったことでした。地震によってひびが入りよじれた建物は、将来に亘って長く使用できる、より頑丈で、エネルギー効率のよい、そして環境に配慮した建物に建て替えられました。これは私たちの想像をはるかに超えた素晴らしい天の祝福であります。

第II期工事の完了

2012年に第II期工事が完了しました。この工事にはコイノニア棟（食堂・厨房・教室・図書室・会議室）の建築が含まれていました。第II期工事の最優先課題は、アジア学院の基本である分かち合いのためのスペースを作ることでした。新しい食卓を備えた12角形の食堂は、今では食後でも長い時間いろいろな集まりでワイワイと賑やかに使用されています。おしゃべりと笑いに満ち、ただ誰かといたいための集まってくる場所としても使われています。日当たりの良い教室と図書室は、講義、学習、小グループのミーティング等多くの活動に使用されています。

12月の卒業式後には男子寮の解体が始まりました。男子寮新築と豚舎の再建は新チャペル建設と合わせて第III期工事に含まれます。2012年度の終わりには男子寮の基礎と骨組みが出来ました。男子寮と豚舎は2013年度中に完成する予定です。

コイノニア棟（食堂・厨房・教室・図書室・会議室）の主な特徴について

【基礎】土壌検査の結果、アジア学院の土壌は柔らかく、深さ2.5mのコンクリートの基礎を必要とすることになった。

【太陽熱暖房給湯システム】屋根に設置されたソーラーパネルは、食堂ホールと教室の床下のパイプを循環する水を温めます。温水は同時に厨房にも供給されます。

【フェアートレード床材】建物の床の木材はスウェーデンのKÄHRS社で生産され、フェアートレードとFSC（持続可能な森林管理をする事業に与えられる認証）の基準を満たしています。

【壁画】コイノニアの入り口の壁に、旧本館から移設されたスリランカの画家・ナリニ・ジャヤスリヤさんによる収穫の喜びを描いた壁画が設置されました。

【家具類】食堂のテーブルと図書室の本棚は黒羽刑務所の更生プログラムの一環で制作されました。

【会議机と椅子】教室と食堂の使用のために、上智大学より会議机と椅子を寄付して頂きました。



放射能 対策

radiation clean-up

野菜作物の放射能と 自給率

アジア学院ベクレルセンターの測定結果によると、アジア学院の基準 37Bq/kg（ベラルーシーの乳幼児の基準に準ずる）を越える食べ物のは、しいたけ、なめこや竹の子、雑草以外ほとんどなくなりました。この測定結果により、2011年度はグリーンハウスの中だけに栽培を限定していた野菜も、2012年度は圃場を全て活用して栽培することができました。このため、食料自給率も90%以上に回復しました。

2012年度のお米は玄米 3.2Bq/kg、白米 0.69Bq/kg と 2011年度の玄米 11Bq/kg、白米 3Bq/kg よりもさらに下がりました。また、ジュース用の人参栽培も再開しました。

2012年度のお米は玄米 3.2Bq/kg、白米 0.69Bq/kg と 2011年度の玄米 11Bq/kg、白米 3Bq/kg よりもさらに下がりました。また、ジュース用の人参栽培も再開しました。

グリーンオイルプロジェクトによる食用油の自給、 飼料の自給、田の除草、発電、トラクター稼働

民間稲作研究所の稲葉先生が主体となってグリーンオイルプロジェクトを立ち上げました。グリーンオイルプロジェクトは原発事故で汚染された畑の土をひまわりや菜種、大豆などの油脂作物を使用して除染し、放射性物質が移行しない油を搾って販売するというものです。また、東京電力に頼らずエネルギーを自給することも目的としています。

アジア学院では、大豆、ひまわり、菜種を栽培しました。特に大豆は今までも栽培していましたが、栽培面積を増やし、これを搾油機で搾って、食堂で使う油の自給を目指しました。1.5トンの大豆を使用すれば、食堂の年間使用量の450リットルの内の125リットルを自給することができます。搾油率は8.3%。一日最大120kg/5時間搾油することができました。1.5トンの大豆であれば13日で搾れます。また、大豆粕は飼料として使用できます。年間養豚用に購入している2.4トンの輸入大豆粕の内、1.4トンの大豆粕を自給することができる計算になります。さらに、大豆粕は窒素分が高く肥料の原料としても優れています。

この他、てんぷら油の廃油を濾過してSVO (Straight Vegetable Oil) を作り、発電機に投入して米、小麦の乾燥機に使用する計画です。またトラクターにも使用できるかどうか試してみようと考えています。

放射能測定結果

ガラスバッジの測定結果によると現在の農場職員の一年間の外部被曝は、今後0.02mSv/月×12ヶ月=0.24mSv/年以下になると考えられます。

ベクレルセンター開業

ABC、これは(A)アジア学院(B)ベクレル(C)センターの愛称です。また、このABCには、3つの段階を踏んで放射能に向き合おうという意味も込められています。ステップA=測る。ステップB=知る。ステップC=一緒に考える。

ABCは2012年1月の発足以来2000件にも及ぶサンプルを測定してきました。野菜、土、水、珍しいものでは田んぼにいるドジョウ、古代微生物の含まれた土（放射能を吸収するといわれるが当センターでは優位な差は認められず）など。

ABCは測定所である以上、正確な測定(A)、わかりやすく結果を伝える(B)ことを旨としていますが、一緒に考える(C)という相談所としての役割もとても大切にしてきました。丁寧に説明していくこと、そして同じ地域に住む者としてアドバイスしていくことは、きっとサンプルを持ってこられた方々の不安を和らげてきたと思います。赤ちゃんを抱えて水の測定にこられたお母さんが、測定の説明とアドバイスを受けて帰っていく際の笑顔はとても印象に残っています。

ABCは発足以来ずっと地域のボランティアの方々に支えて頂いています。アジア学院のスタッフで運営していくことは不可能でした。ボランティアの方々の放射能に対する高い知識と経験とモチベーションで運営されています。

ABCの役割は未だ放射能が与える影響がはっきりとはわからないことを踏まえ、これからも地域の人々の不安に添えていくこと。そして大きな目標としては、望まざる有事のため、未来の子供たちのため測定を続けていき、データを蓄積していくこと。そして、これを10年続けていくこととしました。

放射能測定&アドバイザー

西川 峰城 (左から一番目)
早坂 孝行 (左から二番目)
野澤 一雄 (右から二番目)
阿久津 隆
高島 幸雄
藤本 渉平
(右から一番目はアジア学院職員山下です。)



研修 報告

training program

教務主任

大柳
由紀子

2012年度も神様の豊かな恵みと お導きのうちに、多くの人々に 支えられながら研修を無事終え、 16カ国27名の卒業生を送り出すことが できたことを心より感謝申し上げます。

9ヶ月、36週、252日。これが今年の卒業生が研修に費やした日数です。彼らは61種類にわたる研修科目を学び、2016時間の研修を終えました。その中には470時間に及ぶ農場実習や、33日間・13都府県への研修旅行が含まれます。日本国内における総移動距離は優に5000キロを超えます。

彼らの一人ひとりはその学びが自分のためのものではないことを知っていました。彼らの学びはそれぞれの地域で待つ人々のためのものです。だからこそ、彼らはどれほど研修が厳しくても、どれほど家族が恋しくても、この学びを完遂させました。

アジア学院は東日本大震災による被災を乗り越え、2012年度は震災前と変わらぬ9ヶ月間の研修を実施することができるようになりました。地震で被害をうけた建物群も、多くの方々のお支えにより再建が進んでおります。放射能の被害に関しても、地域の方々と共に学院は独自の除染・放射線調査にとりくみ続け、学内の放射能もだいぶ下がりました。その結果として2012年度は4月から農場における研修はほとんど以前どおりの再開を遂げ、生産においても高い自給率を取り戻しました。

学生達がアジア学院で学ぶのは農業だけではなく、もちろん有

機農業を中心とした食と命に基く学びは学院の根幹ですが、草の根の指導者を養成する学校として、とくに Servant Leadership (人に仕える指導者としての姿勢) は学院のあらゆる場所で強調されます。共に農場で働き、家畜を飼い、ともに料理をして食卓を整えること。互いに奉仕する姿勢を学ぶために掃除や皿洗いにも職員を含めた全員が参加すること。そして何よりも、農場での作業をリードするリーダーを学生達が交代で務めることによって、学生達は理論ではなく実践でリーダーシップを学んでいきます。カリキュラムの総時間数2016時間のうち2割以上を農作業が占めますが、これは農業の実践のためであると同時にリーダーシップの実践でもあるのです。そしてその農作業を通して、地域資源を用いるとはどういうことか、自分達が目指すべき開発の方向性と何かということが次第に学生達に浸透していきました。

今年度の研修で特徴的だったのは学生達の学びに対する貪欲ともいえる前向きな姿勢でした。特にモチベーションの高かった数名の学生達はどんなときでも前向きで、どんなことから学びを得ようとし、そしてその全てが「コミュニティのため」「人々のため」と言い続けてくれました。そして彼らの姿勢は、やがて学生全体に伝染していきました。研修が始まった当初はのんびりとしていた学生も、クラスメートの姿勢に感化されていきました。

卒業発表の際、彼らは夢を語りました。有機農業を実践したい。食と栄養の大切さを教えたい。家畜の糞や米ぬかなどの地域資源を活用して農民達を貧困から救い出したい。農民達のために農業のトレーニングセンターを作りたい。ある学生は卒業報告なのでこう述べています。「実践しない夢は、死んだ夢だ」。かれらの夢が、どうか地域と人々と共に実践されていきますように祈ります。



(順不同・敬称略)

農業関連見学・研修先

帰農志塾（有機農業）、ウィンドファミリー農場（有畜複合農業）、金子美登・石川宗郎（有機農業）、田下隆一（有機農業）、桑原衛（有機農業・バイオガス）、民間稲作研究所（稲作・自然エネルギー）、自由学園農場、丸森かたくり農園、秀明ナチュラルファーム足立

見学・交流等、
研修で
お世話に
なった方々

study supporters

見学先・交流団体

【栃木県】 那須野ヶ原博物館、足尾銅山鉱毒事件学習（旧松木村跡、足尾製錬所）、渡瀬川遊水池、西那須野幼稚園、矢板幼稚園、黒羽中学校、宇都宮北高校、宇都宮女子高校、国際医療福祉大学、西那須野教会、那須塩原教会、家の教会しおん、大田原カトリック教会、那須高原教会、矢板教会、塩谷一粒教会、四條町教会、宇都宮上町教会、鹿沼教会、松が峰カトリック教会、松原教会、氏家教会、栃木教会、足利教会、足利東教会、小山教会 【東京都】 日本基督教団全国教会婦人会連合、東京ユニオンチャーチ、日本バプテスト同盟婦人会、全国友の会 【他府県】 渡良瀬川鉱毒根絶太田既成同盟会（板橋明治）、丸木美術館、しゃれべん会、ARISA（アジア学院サポーター）各位、各地ロータリークラブ

農村地域研修

【山形県置賜地区】 渡部務・美佐子、原田俊二・加矢乃、菅野芳秀、長井市レインボープラン推進協議会、基督教独立学園（安積力也校長）、黒沢巖、川西町ロータリークラブ、高島共生塾（遠藤周次）、高島町住民生活課エコタウン推進室、米沢郷牧場、JA山形おきたま農業組合、川西ときめきセミナー（佐藤恵子、原田加矢乃）、川西町役場（原田俊二町長・産業振興課）、しらたかノラの会、米沢興譲教会、草岡ハム加工組合、秋津ミチ子 【山形県戸沢村】 戸沢村役場産業振興課地域づくり推進係、国際交流協会、芳賀欣一、JA山形もがみ、角川小中学校、神田小学校、古口小学校 【山形県庄内地区】 加藤敏一、月山パイロットファーム（相馬一広）、共立社鶴岡生協（佐藤誠一）、志藤正一、JA庄内たがわ宮農政課、荘内教会（矢沢俊彦）、荘内教会保育園、藤島町農村環境改善センター、庄内協同ファーム、鶴岡市藤島庁舎エコタウン室、みます元氣村（加藤興治）、鶴岡市立加茂水族館、佐藤昌司、茨新田生産組合、鈴木完司、鶴岡農協西郷支所、有限会社ドリームズファーム 【秋田県仁賀保町】 土田牧場（土田雄一）、佐藤喜作、JAにかほ、曹洞宗太白院、都市農村交流センター 【岩手県】 ウレシパモシリ自然農園（酒匂徹）

西日本研修旅行

【静岡県】 聖隷学園、聖隷クリストファー中・高等学校、遠州栄光教会、十字の園、アドナイ館、第二アドナイ館、山中忍（みかん農家） 【大阪府】 大阪南 YMCA、関西沖縄文庫（金城馨）、NPO 金ヶ崎支援機構、野宿者ネットワーク、希望が丘教会 【熊本県】 熊本いのちと土を考える会（高丸和彦）、エコネットみなまた・はんのうれん（大澤菜穂子）、水俣病資料館、緒方正実（証言者）、ほっとハウス 【山口県】 祝島島民の会（山戸貞夫）、児玉誠、氏本豚農園 【広島県】 広島平和記念資料館、岡田恵美子（証言者） 【京都府】 同志社大学国際居住研究会 【群馬県】 草津楽泉園、筈雄二、赤尾拓子

新しい国からの学生

今年度は初めて東ティモールからの2人の学生を受け入れることが出来ました。また、卒業式の際に東ティモール民主共和国駐日大使をアジア学院に招きました。

2012
Achievements

研修に対する高いモチベーション

学生の強い要望でバイオガスのワークショップが実現しました。また、夏季個人プロジェクトにおけるミニバイオガスプラントなどの自主プロジェクト、学生が教える側となる有機農業実習授業など、学生が互いから学び合う姿勢が強調されました。

新しい学生の研修先

学生の学びのニーズに応じて、自家採取について茨城県秀明自然農法に取り組む農家、エネルギー自給型有機農業を実践している栃木県の民間稲作研究所、自然農法を実践する宮城県の丸森かたくり農園等を訪問し、学びを深めました。また西日本研修旅行において、山口県の祝島島民の会と群馬県栗生楽泉園（元ハンセン病患者療養施設）を初めて訪問しました。

カリキュラム

curriculum

有機農業実習

practical field study

有機農業、畜産、
食品加工の論理的
および実践的知識
の習得を目的としている

ぼかし肥作り	養豚（人工授精、
堆肥作り	出産、去勢）
土着菌の採取と活用	家畜衛生
天恵緑汁	飼料配合
魚のアミノ酸資材	育雛
水溶性カルシウム	発酵床式畜舎
炭焼きと木酢作り	発酵飼料作り
粕穀くん炭	肉加工（ソーセージ、ハム）
自家採種	
練り床を利用した苗作り	

コミュニティを 基礎にした 活動

community-based activities

- グループによる農場管理活動
（野菜作物栽培、および畜産）
- フードライフワーク
（自給自足のための農作業および給食準備）
- コミュニティ・ワーク
（田植え、稲刈りなど）
- 内的成長を促す活動
（朝の集会、Growth File、
コンサルテーション、振り返りの日）
- 口頭研究発表会
- 収穫感謝の日
- コミュニティ形成活動
- 国際交流プログラム
- ホームステイプログラム

講義 一覧

lectures

【日本語、日本文化】

小倉 恭子*

【指導者論】

アジア学院の指導者論
アジア学院の歴史と建学の精神
サーバント・リーダーシップ
参加型学習法
独立学習
発表技術
報告書作成指導
時間管理
ファシリテーション技術
早期教育の重要性
人間開発

大津 健一
荒川 朋子
荒川 朋子、大柳 由紀子
荒川 朋子、大柳 由紀子
スティーブン・カッティング
大柳 由紀子
スティーブン・カッティング
ティモティ・アパウ
大柳 由紀子
ドナータ・エルシェンブロイヒ*
ティモティ・アパウ

【開発論】

ローカライゼーション
環境と開発
栄養概論
アジアの人身売買の問題
那須疎水と西那須野開拓の歴史
足尾銅山鉱毒事件と田中正造
ジェンダー論
開発とアジア学院の使命
共助組合論
TPP とグローバリゼーション
友の会とその歩み

鎌田 陽司* (NPO 法人「懐かしい未来」代表)
田坂 興亜* (アジア学院理事)
荒川 朋子
甲斐田 満智子* (国際子ども権利センター)
田村 修也*
坂原 辰男* (田中正造大学)
荒川 朋子
J・B・フーパー* (アジア学院北米後援会)
遠藤 抱一
レイモンド・エップ* (有機農家)
全国友の会*

【持続可能な農業・技術】

持続可能な農業概論

野菜・作物概論
畜産概論
家畜繁殖
養鶏
養魚
家畜飼料概論
代替技術
農業技術実習
作物病虫害管理
家畜病気管理
アグロフォレストリー
化学農業の危険性
熱帯における自然農業
パーマカルチャー
日本の組合の歴史と賀川豊彦
適正技術
生産者と消費者の提携
バイオガスワークショップ
立体農業の哲学

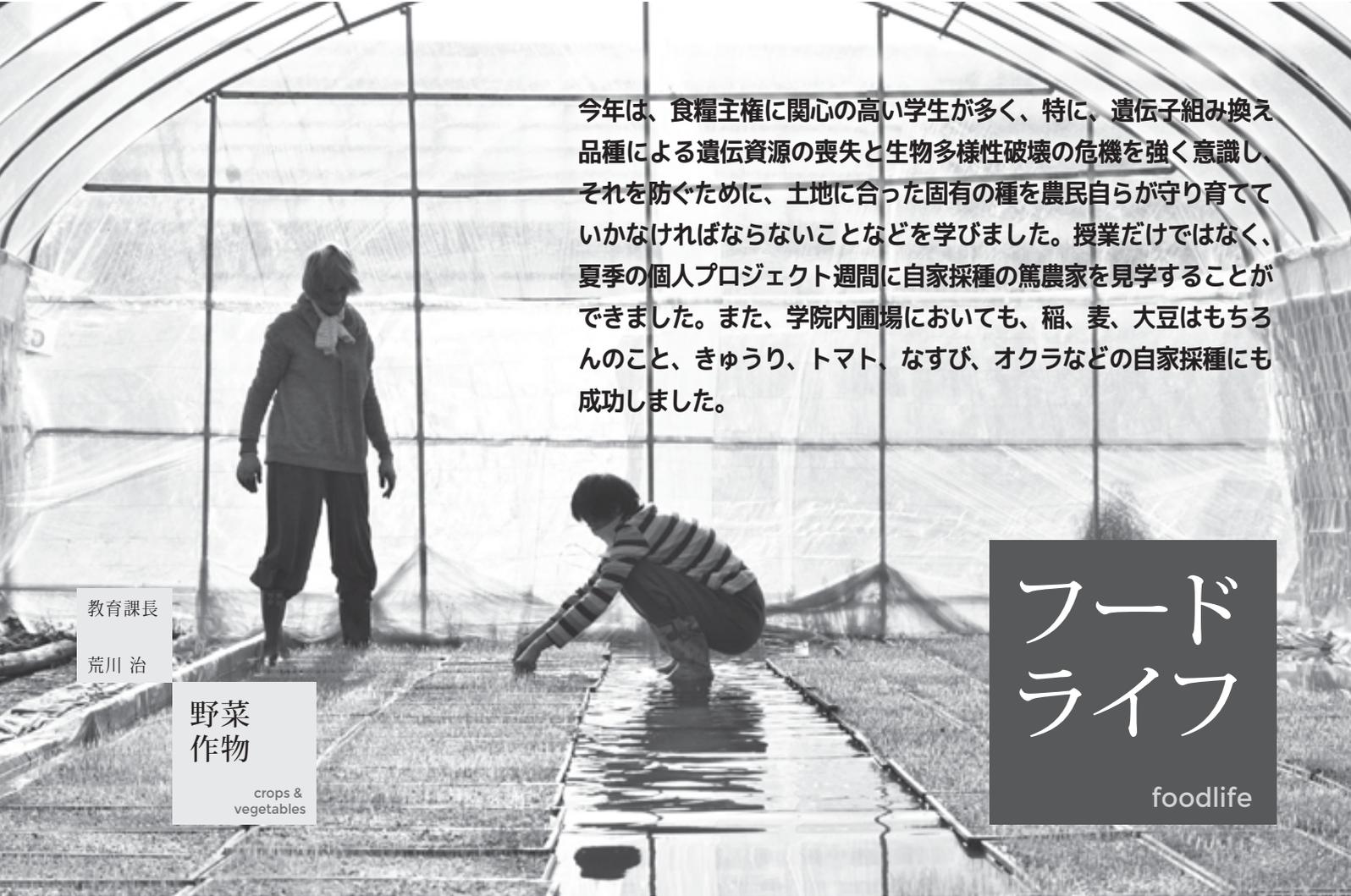
アルデンドウ・チャタジー*
（76年卒業・インド 農業アドバイザー）
荒川 治、山口 敦史
ギルバート・ホガング、大谷 崇
ギルバート・ホガング、大谷 崇
ティモティ・アパウ
パン・ヒョンウック
ギルバート・ホガング、大谷 崇
パン・ヒョンウック
荒川 治、山口 敦史、ギルバート・ホガング
山口 敦史
ギルバート・ホガング
山田 祐彰* (東京農工大学講師)
田坂 興亜* (アジア学院理事)
村上 真平* (自然農法家)
酒匂 徹* (有機農家)
大柳 由紀子
パン・ヒョンウック
荒川 朋子
桑原 衛* (NPOふうど代表)
芳賀 欣一* (戸沢村国際交流協会会長)

【その他】

日本における生活の留意点

那須塩原警察署*

* は特別講師



今年は、食糧主権に関心の高い学生が多く、特に、遺伝子組み換え品種による遺伝資源の喪失と生物多様性破壊の危機を強く意識し、それを防ぐために、土地に合った固有の種を農民自らが守り育てていかなければならないことなどを学びました。授業だけではなく、夏季の個人プロジェクト週間に自家採種の篤農家を見学することができました。また、学院内圃場においても、稲、麦、大豆はもちろんのこと、きゅうり、トマト、なすび、オクラなどの自家採種にも成功しました。

教育課長

荒川 治

野菜 作物

crops &
vegetables

フード ライフ

foodlife

畑（二反歩）に加えて、田（一反歩）も学生たちに管理してもらいました。グループ1は合鴨水稲同時作を行いました。合鴨を田に入れた次の日の朝には半数を失ってしまいました。原因は不明ですが、おそらく早朝にカラスに食べられたのだと思います。収穫量は反当たり4.8俵でした。グループ2は鯉水稲同時作を行いました。水管理に苦労していましたが、米の収穫量は反当たり6.9俵でした。魚はほとんど鳥に食べられてしまったようです。グループ3は、前作が畑であった田んぼを担当しました。雑草がほとんど発生せず、除草に手間がほとんどかかりませんでした。収穫量も反当たり9.2俵と非常に良い成績でした。グループ4は、不耕起栽培で草によるマルチで抑草しました。収穫量は反当たり4.4俵でしたが、2年前の1.5俵から比べるとかなりの増収でした。それぞれの異なる栽培方法を授業や見学からだけでなく、実際に体験し、その利点や欠点について深く学ぶことができました。例年よりも学生の稲作に対する理解は深まったと思います。

この他、週二回、朝夕の農作業の間に、畑担当の学生が農場職員、食堂職員と共に畑を見て回る野菜収穫調査を始めました。その週に収穫できる野菜をチェックしながら、各野菜の栽培の仕方や野菜の特徴などについて話合うことができました。各グループから1名ずつ合計4名の学生とそれぞれの畑を見て回ることでできたため、いろんな国の違った栽培方法なども、実際の野菜を前にして細かく互いに学び合うことができました。また、これにより、食堂の野菜需要と畑の野菜供給の調節も適切に行うこともできるようになりました。野菜の供給が過剰な時には野菜を加工し、トマトピューレや乾燥モロヘイヤの作り方など学生が自主的に学ぶこともできました。

2012 Achie- vements

水田圃場を学生主体で

今年は畑（20a）だけではなく、田（10a）も学生に管理してもらいました。

合鴨水稲同時作、鯉水稲同時作、畑と田の輪作、不耕起栽培などを行いました。栽培方法の違いから、それぞれの農法を実習体験しながら学ぶことができました。

自家採種の実施

今年は自家採種の重要性を問う学生が多く、授業だけではなく、夏季個人プロジェクト週間に自家採種の篤農家を見学することができました。また、学院内圃場においても、稲、麦、大豆はもちろんのこと、きゅうり、トマト、なすび、オクラなどの自家採種が成功しました。

新しい作物への挑戦～なたね・ひまわり～

圃場に蓄積したセシウム等の放射性物質の除去と、作物に放射性物質を移行させない取り組みとして油脂作物の栽培を始めました。大豆、エゴマは以前より栽培を行っていましたが、今年度よりはじめてなたね、ひまわりの栽培を行い、順次食用油を生産していく予定です。

食用油の自給

搾油機の導入（米国合同教会支援）に当たって、念願であった食用油（大豆油）の自給を少しずつ開始しました。本格的には来年度を予定しています。

畜産

livestock

畜産担当

大谷 崇

保育舎では従来の牛糞と落ち葉の発酵による床暖房を導入していましたが、牛飼育の中断により素材の確保が困難になり、おからと米ぬか、もみがらの発酵による床暖房に変更しました。また発酵装置からのパイプを通して保育舎の室内に熱を供給することが出来るようにしました。

養豚部門

【地域資源を活用した飼料の自給化の促進】 飼料費は動物を飼育する上でもっとも大きなコストになります。日本はほとんど全ての飼料を輸入に依存しています。

これに対し、養豚部門では他のセクションと協調しながら、仕入れ飼料原料の支出を削減しようと試みました。まず高価な脱脂大豆飼料の購入を中止し、アジア学院の大豆から搾油した後の搾りかすを代替として使用することにしました。またふすま飼料の購入も中止し、アジア学院の小麦のふすまと、従来より飼料に使用していた安価な小麦を粉砕したものを代替として使用することにしました。肥育豚にはコイノニアから出る卵の殻や、豚や魚の骨を燃やして粉末にしたものを、購入飼料のリン酸二カルシウムの代替として使用することにしました。

同時に飼料費を減らすために配合飼料の使用を減らし、発酵飼料の使用を増やしました。発酵飼料はおからやご飯、パン、米粉などの豆腐メーカーや給食センターや酒造会社からでる廃棄物を利用して作成しています。特に肥育豚の体重が 90 キロに達したときには配合飼料の給与を停止し、全量を発酵飼料と茹でた小麦に切り替えることにしました。

今年から屑野菜と畦草の給与を開始しました。屑野菜は農場の収穫残渣や給食センターなどから頂くものが中心です。給与前に特に畦草については放射能の測定を行っています。これらの変更を行いました。私達の豚はとても良く成育しています。

【新しい豚舎の建設】 昨年からはまったアジア学院の再建計画の中には新しい豚小屋の建設が優先課題として含まれていました。

緊急性と予算の関係で、コイノニア、教室、図書館そして男子寮が優先されましたが、2013 年には豚小屋の建設が始まり、男子寮の建設と同時に終了する予定です。新しい豚小屋の建設により、豚に十分なスペースが確保でき、飼育頭数を増やすことが可能になります。

畜産物の放射能モニタリング

飼料原料及び飼料と、それを給与して生産した畜産物の放射能測定を定期的に行いました。飼料については外部から仕入れている米ぬかや米粉などのほか、それを配合した発酵飼料やサイレージ用の飼料用とうもろこし、畜産品については豚肉、鶏卵、鶏肉、魚を測定しました。測定にあたってはアジア学院ベクレルセンターに依頼しました。

原発事故以降、牧草・畦草の給与を中止していましたが、畜舎周囲の畦草の測定を行ったところ放射能レベルの低下が見られました。そこで鶏舎内で非給与群と給与群を設定し、それぞれの群の卵を継続的に測定し、更に屠殺後には内臓と肉の測定を行いました。その結果、問題のないレベルであったため、畦草の給与を再開しました。測定にあたっては NPO 有害化学物質削減ネットワークのご協力をいただきました。

養魚部門

自給用として鯉を飼育しています。鯉は劣悪な環境でもよく育ち、水田の除草を担うことも出来ます。東日本大震災では養魚池に亀裂が入り深刻な被害を受けましたが、そのうちの被害の大きかった 3 つの養魚池については補修を終えることが出来ました。

飼育に際して飼料は購入飼料に依存せず、すべて地域資源を原料とし、それを自分達でペレットに加工して使用しています。稚魚用のほか、魚の大きさに応じて計 3 種類のペレット飼料を作成しています。

鯉は冬は養魚池が凍結し休眠状態に入るため、食卓に上がるまで 3 年の長い時間がかかりますが、長い時間の愛を受けて育ったからこそ、コミュニティメンバーお気に入りのメニューの一つになりました。

養鶏部門

【発酵飼料によるブロイラーの飼育】 一つは発酵飼料によるブロイラーの育成です。これは初めての試みでした。当初、我々は発酵飼料の利用に自信がありませんでしたが、結果は良好で、飼育中の致死率も思ったより低いものでした。今年はコミュニティの消費のために再度挑戦したいと考えています。雛の導入に当たっては株式会社イシイ様のご協力を頂きました。

【鶏舎環境の改善】 鶏舎は他の畜舎と密接しており、屋根もトタン波板であったため冬季の日照時間の短い期間には鶏舎内が暗くなりがちでした。これを熱線や紫外線を抑制する透明で強度のある波板に交換することで十分な日の光が注ぐようになりました。



給食

meal service

2012年度の給食は、担当職員の退職に伴い、例年とは異なる運営方法となりました。オリエンテーション期間の終わった5月以降、専属の「給食コーディネーター」がいない中、役割と責任を分担していきました。昼食調理および運営・管理業務等はパート職員二名が中心となっており、ボランティア数名とともにチームを形成して業務に携わり、また朝食・夕食の調理は学生にとって学びの環境でもあることから、教務主任（食堂全般のスーパーバイザーを兼任）と研究科生が中心となっており、学生たちと共に調理を行いました。

東日本大震災にともなう放射能被害は、2011年度の学院農場利用の制限をもたらした。必然的に自給率は低下しました。しかしながら学院は地域の方々と共に独自の除染・放射線調査取り組み続け、学内の放射能もだいぶ下がりました。その結果として2012年度は4月から農場における研修はほとんど以前どおりの再開を遂げ、生産においても高い自給率を取り戻しました。「自分たちの食べ物を自分たちで生産し、調理し、とみにいただく」ことの喜びは、いったん失ったものだからこそさらに大きく感じられました。より安全な食べ物を提供し続けていくため、今でも食堂において供される食材はあらかじめアジア学院ベクレルセンターにて放射線量調査を行っています

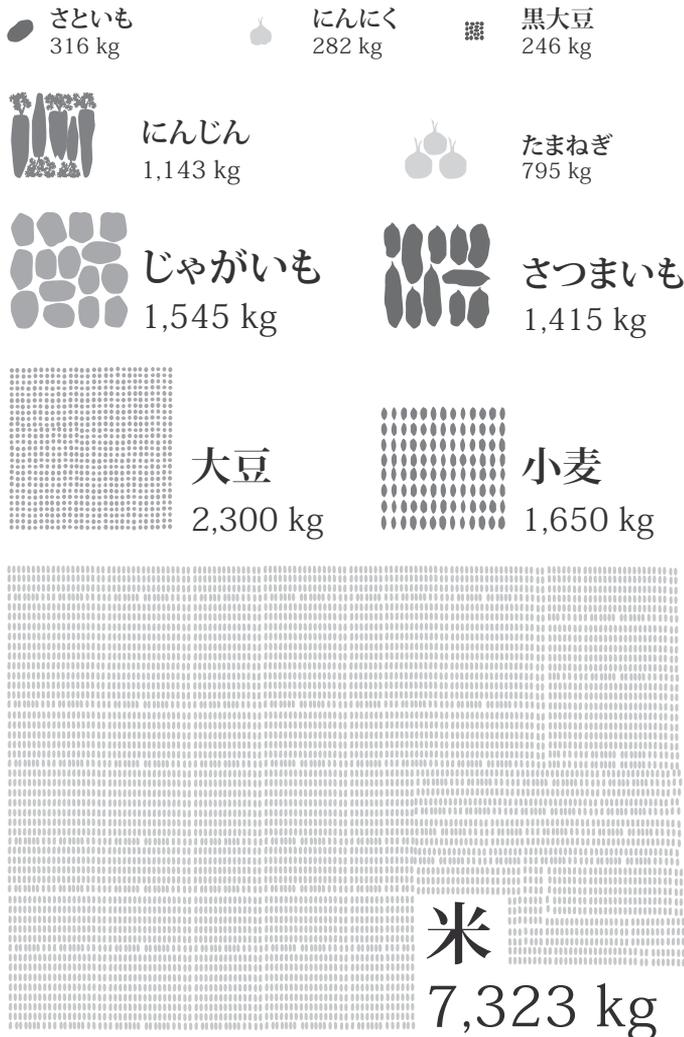
給食における学び

前述のとおり、朝食・夕食の準備は主に学生によって調理されます。職員や研究科生・ボランティアはサポートに徹します。たとえば農場で作業をするときに農業の技術と共にリーダーシップを学ぶように、給食でも栄養や調理を学ぶと共に、リーダーシップを学びます。1時間半の限られた時間の中でどのように人を配置し、役割を分担していくか。50人前後の食事をどう料理するか。宗教的タブーやアレルギーなどの食材制限のある人々の食事をどうケアしていくか。その全てを学生たちが交代で担っていきます。もちろん料理の経験がない学生も少なくありません。その場合も学生同士がカバーしあっていくのですが、2012年度はそのバランスが非常に良かったと感じます。

学生たちの中には、「男子厨房に入らず」の文化から来ている者もいます。「食事の支度になぜ僕たちが入るのか」との不満を耳にし、6月から7月にかけて、大津校長が食事準備に一部参加（各学生が、最低一度は校長と共に調理を経験）をしました。以来「食事の支度は女性の仕事」という声は聞かなくなり、むしろ「学びの機会」ととらえる学生が増え続けていきました。

教務主任
大柳
由紀子

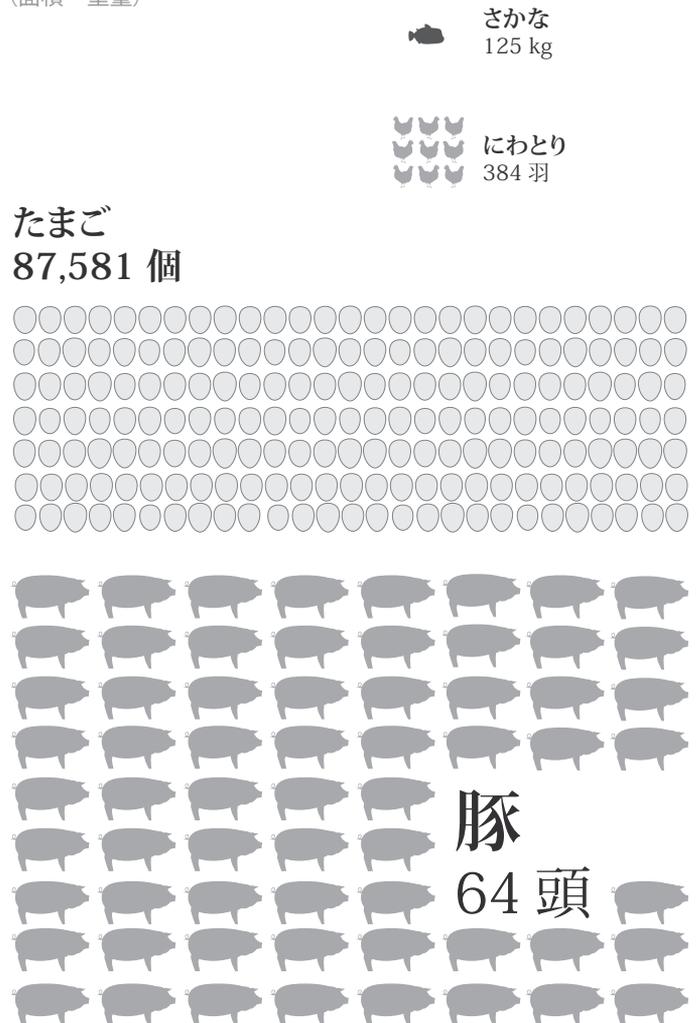
2012 Yield crops & vegetables



2012年の主な農作物の生産量

livestock

(面積＝重量)



卒業生 活動

graduate activities

アジア学院は1200人以上の卒業生と常に連絡を取り合うことに尽くしています。卒業生は自分たちの活動を報告するだけでなく、地元の農民のために奉仕するよい団体を送り出し団体として推薦したり、研修に応募してきた人々を訪ねて学生選考に協力してくれます。2012年度に報告を送ってくれた学生の活動を紹介します。

卒業生
アウトリーチ
キャシー・
フローディ



インドネシア
旅する牧師農民、ティゴ・シホンビングさん
(2003年度卒業生)

ティゴさんは2012年に「旅する農民」になりました。アジア学院を卒業する際、彼の夢は有機農業をインドネシア中に広めることでした。「有機のためのツアー」と呼び、2月末に始めました。彼は旅先で土壌のこと、土壌の改善、ぼかしや発酵植物汁液の作り方、炭、やぎと豚を利用した複合有機農法を含む、有機農業の基礎を人々に教えました。

ティゴさんはバス、ボート、バイク、トラックを利用して北から南へかけて島々の農村を訪ね移動しました。北のスマトラ島からメナド市（南スラウェシ島）を旅し、ドルモグの人々を訪問し研修を行いました。その後口テ島へ行き、現地の人を2か月以上訓練しました。その後スラバヤ市へ行き、トラウス村でやぎや有機農業について訓練し、「D'Natural」というレストランとお店を訪問しました。次はバリ島でメスティカ氏（97年卒）と有機農業について話し合いました。バリ島では木酢と韓国式豚舎の方法も教えました。そして彼は南に位置するスンバ島にたどり着き、北に帰る途中で新しい所を何カ所も訪問しました。

「有機のためのツアー」の費用はティゴさんがすべて自己負担しました。ある教会で説教した際に少額のお金を受け取り、費用の一部を賄うこともありました。ティゴさんは「有機のためのツアー」を通じて自分がアジア学院で学んだ知識を人々に伝え、インドネシア人の生活と健康の向上に貢献することを望んでいます。



インド) トーマス・マシュー 1988年卒

トーマスさんは、人権、宗教の自由と平和のために世界中に手を伸ばしています。マラウイで開催された人権セミナーにIARF(信教の自由のための国際協会)を代表しました。また、世界中にメンバーを持つ組織「平和市長会議」は彼を、2020年までに核兵器を根絶することを目的とした「Vision 2020」キャンペーンのための平和活動家として任命しました。

フィリピン) アガイン・サラ・ナガセ 1996年卒

アガインさんは、日本で家庭内暴力と人身売買の犠牲者であるフィリピン人女性に奉仕するNGO「KAFIN」を設立しました。現在KAFINはフィリピン人やその他の出稼ぎ労働者への教育を通じて自己啓発を促進するために、埼玉県蕨市と川口市で活動を広げています。

ネパール) 藤井牧人・ティル・クマリ・ブン夫妻

共に2004年卒

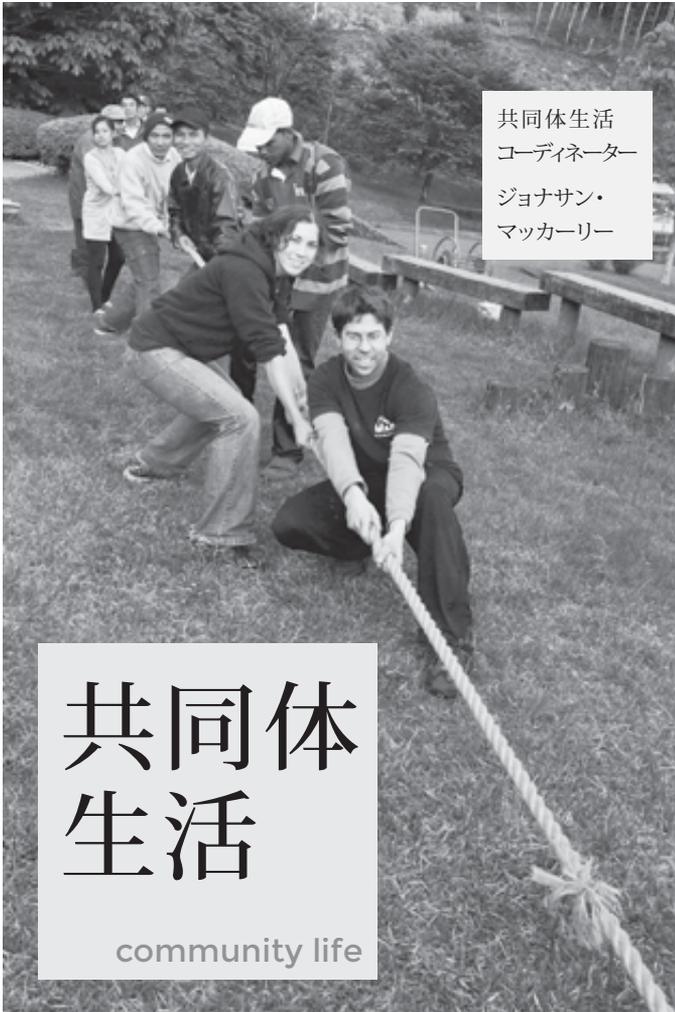
牧人さんとティルさんは4年前に農閑期中に手工芸品作りを始めました。地域の女性も参加して手工芸品はとても人気を集め、今はそれを主な活動としていますが、いつか彼らはまた農業の夢に専念したいと思っています。(この手芸品はアジア学院で販売中です)

インド) リッキー・ネルソン・レントレイ

リッキーさんは東北インドのメガラヤ州で、森林と生物多様性保全を所得創出につなげるプロジェクトのために働き、地域コミュニティはこの活動を大歓迎しています。彼のスローガンは「森をよりよくすることは生活の質を良くする」です。

インドネシア) デボラ・シナガ 1991年卒

HKBP福音ルーテル教会の主教であるデボラさんは幼児教育に特別な注意を払っています。彼女は幼児教育は、一人ひとりがお互いを尊重し、尊敬し合う世界を作るために必要な姿勢を人間に持たせることができると信じています。



共同体生活
コーディネーター
ジョナサン・
マッカーリー

共同体 生活

community life

2012年度、アジア学院のコミュニティー（共同体）は共に乗り越えなければならない多くの困難に直面しました。キャンパスは再建工事中であったため、使っていない空間を最大限に活用し、不便さにも柔軟に対応しなければなりません。しかし、事故もなく、旧食堂ホールを臨時的に図書室として使えるように仕切りを置き、また、話し合いの際に食卓を使ったりと、今まで使われていなかった場所が活かされたことは嬉しいことでした。

共同体を作り上げるということは、時には共に苦しむことを意味します。解決に時間がかかるという葛藤もありました。研修期間中に家族の一員が病気や戦争で亡くなったメンバーもいました。コミュニティーメンバーの発案で追悼会が計画され、募金が集められました。それぞれの問題には異なるアプローチがあるとはいえ、真摯に互いを支え合うコミュニティーになれたことを感謝しています。

またアジア学院は、近隣の学校と交流をしたり、西那須野ふれあい祭りで盆踊りをする等、地元の行事にも参加しています。

アジア学院サンデーと教会との関わり

栃木県のアジア学院サンデーは6月下旬に県内の教会（主として日本キリスト教団）で開催されています。「Asia Sunday」と既に定められているこの日に、アジア学院の働きを支援する為に多くの教会が学生たちを招いて下さり、礼拝と交流会を持っています。多くの場合、学生たちは説教をしたり、自分たちの生活についての分かち合いをします。2012年には栃木県内の11の教会でアジア学院サンデーが開催された他、県内外多くの教会との交流会を持つことができました。



カリキュラム以外の活動

カリキュラム以外にも多くの活動を行なっています。毎週月曜日の夜には祈禱会、毎週火曜日にはミンゴス（みんなでゴスペル）というゴスペルグループの練習があります。その他にも映画会、英語教室、運動会、足つぼマッサージ、そして聖書勉強会などがあります。私たちにとって精神的に共に成長できる大きな機会でもあります。

今年度はミンゴスグループ、足つぼマッサージグループが震災復興の一助として被災地を訪問しました。ミンゴスは福島県でゴスペル・チャリティー・コンサートに参加し、足つぼマッサージグループは仙台の仮設住宅を訪問し、足つぼの施術を行ないました。

ボランティア

2012年度初めにはボランティアの数が少なかったですが、すぐに増え始め、2011年度と同様に長期ボランティアが10名となりました。2011年度には多くのものを失いましたが、今年はダイナミックな復活を遂げました。ボランティアたちは再建を通してお互いに支え合うコミュニティーとして成長し続けました。

2012 Achievements

- ・寮の清掃はうまく組織化され、特に女性寮で大変うまく行われました。
- ・西那須野教会員の助いで「Voices of ARI 2012」という音楽CDを作成しました。
- ・コミュニティーメンバーはパーティーやボランティア集会、英語教室等多くの催しの立案のリードを取りました。
- ・春と夏のあいだに運動場が大いに活用されました。



後援会

supporters
association

「ワークキャンプから帰ってきて、他者のために生きるのではなく、
他者と自分のために生きることなら僕にもできると思えるようになった。
それががちがちの人生じゃなくて共に笑える人生。
農業の美しさにも気づけた。でもやっぱり一番の収穫は人との
出逢いだった。アジア学院でもフィリピンでも。」

フィリピン・ワークキャンプ参加者の声

高校生フィリピンワークキャンプ

(8月) 5名の参加者とともに、今年も卒業生の活動地フィリピン・ジェネラルナカル州を訪問しました。アジア学院でのオリエンテーションの後、フィリピンスーパー台風被災地での復興プロジェクト、地元の高校生たちとの交流やホームステイなども行ないました。

収穫感謝の日一品寄付バザーの開催

(10月) バナナやさつまいも、魚、一品寄付バザーの物品の献品などを送ってくださる方、値付けからいつもお手伝いをして下さっている方、朝早くから材料を準備して下さった方、東京からかけつけて下さったサポーターの方など、多くのボランティアの方々に助けて頂き、震災前に比べ一品寄付は少ない中での開催でしたが、ほぼ震災前の売り上げ(総収入：645,310円)となりました。

西日本キャラバン(出張報告会ツアー)の実施

(11月) 今年は「豊かさとは?」というテーマで西日本各地37箇所ですトークセッションや授業、訪問等をさせていただきました。支援者の皆さんとの再会や新しい出逢い、多くの方々に支えられていることを実感し、励まされるキャラバンとなりました。

組織変更

6月30日(土)に第36回総会が開催され、組織変更についての活発な意見交換が行なわれました。

アジア学院後援会(ARISA)は、アジア学院に連なる人々の集合体としての「ARISA=アリスア(アジア学院支援者の会)」として新に出発しました。

これまでの会費を納めるのが中心だった後援会から、支援者の方々が自主的、積極的にアジア学院への支援方法を話し合い、生み出し、活動をしていきます。これまでの会費は、毎年・毎月継続寄付(マンスリー・イヤリーサポーター)としてアジア学院で管理をし、寄付をして下さった方々が確定申告の際に寄付控除を受けることができるようになりました。

キャラバントークセッションの参加者の声

「改めてコミュニティや世界、日本で必要な働きについて考える良いきっかけになりました。ありがとうございます!」

「違う視点で社会や暮らしの中の豊かさ・不満について考えることができて良かったです」

訪問団体・
ホスト
ファミリー名
caravan supporters

【岐阜県】 御岳町役場(教育委員会)、永谷農園(永谷嘉規・香様) 【愛知県】 永福寺(伊藤幸慶様)、(特活)アルシュ、ARISA Tube、(教)中京教会、(教)名古屋桜山教会、名古屋ユニオン教会 【三重県】 愛農会、鎌田陽司様 【滋賀県】 アシラムセンター(榎本恵様)、近江兄弟社学園高等学校 【京都府】 バザールカフェ、同志社大学、リボン京都、【大阪府】 J-House、モモの家、追手門学院大学、(教)豊中教会(後藤正敏様)、聖公会川口教会、(教)住吉教会、ぐるりの家(竹之下萌愛様)、プール学院中学校、プール学院大学 【兵庫県】 神戸ユニオン教会、(教)甲東教会、(教)宝塚教会、(教)神戸多聞教会、(教)神戸イエス団教会、天国屋カフェ、賀川記念館、神戸パイブル・ハウス、神戸YMCA 祈禱会、関西学院大学、啓明学院中等学校、神戸学生青年センター、Peace and nature cafe、ポーゴプロジェクト、本岡昌明・節子様、長田操様、Michel Shackleton 様 【広島県】 広島女学院大学、むささび農園(北原六地・佳代様)

NR.1
豚肉類NR.2
たまごNR.3
米NR.4
クッキーNR.5
コーヒー

セールス

主に食品を扱う販売部では、福島第一原発での事故による放射能汚染への対応が2012年度中も課題となりましたが、幸いにも商品全ての原料からは基準値(37Bq/kg)を超える放射性セシウムは検出されませんでした。販売品目としては、従来の加工食品をはじめ、豚肉や卵など生鮮品の分野で新規のお客様が増えました。食の安全と美味しさへの信頼を得た結果として、「定期的に購入したい」というご希望をうかがうことができ、ゆるやかな提携システムを構築しつつ販路が拡大されたことが窺えました。

野菜・作物部門では、風評被害により注文が滞ってしまった2011年度産のお米を、4月から8月まで月1回お届けする「お米サポーター」という形態で提供し、前年の目標であった1tが完売、さらに2012年度産のお米も予定販売量が売り切れとなりました。また、2011年度中は休止していた提携販売「野菜の会」、ニンジンジュースの生産と販売が再開となりました。

また、フィリピンの卒業生が関わるコーヒー豆をフェアトレード団体わかちあいプロジェクトを通して購入し、学院内で焙煎したものを2010年度から販売し始めましたが、2012年度は売上が飛躍的に成長した年となりました。いわゆる銘柄ではありませんが、豊かな香りと苦味が特徴である味に定評があり、また卒業生の活動を近く感じられる商品として、多くの方にご愛飲いただくことができました。

生産物を購入し食べていただくこと(=わかちあい)で、より多くの方がアジア学院と卒業生たちの活動を知る結果となり、さらにそれらを支えるという繋がりへと発展させることに重点をおきました。

那須セミナーハウス

2011年は放射能の懸念から例年の3分の1以下にワークカンパニー、ワーキングビジターともに落ち込んでしまいましたが、バクレルセンターや日々の放射線測定などアジア学院での放射能の取り組みを丁寧につたえ、理解を得ていくことで2012年は例年の3分の2以上にまで回復することができ、寮とセミナーハウス合わせて500人以上の宿泊者を迎えることができました。

新しいホームページ公開

6月にアジア学院の公式ホームページ(www.ari-edu.org)が完全に新しくなりました。「ワードプレス」というプログツールの構造に基づいており以前のバージョンよりも更新しやすくなりました。2012年度末までに50カ国から2万人のビジターがホームページを見てくださり、合計75,000のページビューがありました。

イベント

5月 週末ワークキャンプ「循環～輪の中に暮らす～①」

インド卒業生のチャタジー氏と共に生態系や持続可能な暮らしについて話し合い、農作業をしました。アジア学院の大切にしている〈フードライフ〉について考える3日間でした。

6月、9月、3月 つながるフリーマーケット&古本市

那須セミナーハウスの屋内やメディテーション庭園を使いフリーマーケットを行いました。民族音楽やゴスペルなどのライブやカフェも行なわれ、アジア学院の学生と地域の皆さんとの交流のひと時となりました。

8月 グリーンオイルプロジェクト情報交換会

那須セミナーハウスを会場に、アジア学院の向日葵畑、大豆畑の見学、搾油機の見学や、その他農家の方から稲作方法などについての情報交換が行なわれました。

10月「チェロの音色」コンサート

日本フィルハーモニー交響楽団のコンサートで演奏するために来日していた、チェリストのレオナルド・エルシェンブロイヒ氏をお招きし、チャリティコンサートが開催されました。新しいコイノニア食堂に支援者の方からグランドピアノをご寄贈頂き、レオナルド氏の母親でもあり、アジア学院のドイツ人支援者であるドナータさんとのチェロとピアノのデュオを聴くことができました。



2月 英語ワークキャンプ「循環～輪の中に暮らす～②」

アメリカ人ボランティアと共に企画をし、「英語を使ってエコライフ・フードライフ」をテーマに、は農作業や廃油石けん作り、インド・ナグランド料理作りなどに様々な年代の参加者に体験していただきました。

役員

理事長

丹羽 章(5月まで) 獨協医学大学名誉教授
社会福祉法人一麦福祉会理事長
大津 健一(6月1日から) アジア農村指導者養成
専門学校校長

副理事長

福田 龍介(5月まで) 東京ユニオンチャーチ役員
遠藤 抱一(6月1日から) アジア学院 法人財務室長

理事

福田 龍介(6月1日から) 東京ユニオンチャーチ役員
遠藤 抱一(5月まで) アジア学院 法人財務室長
山田 正(5月まで) 元三井不動産(株)専務取締役

丹羽 輝子(5月まで) 元(学)東洋英和女子学院講師
興石 勇 前日本キリスト教協議会議長・
日本聖公会志木聖母教会司祭

門脇 英晴 (株)日本総合研究所特別顧問
久世 了 前(学)明治学院学院長
星野 正興 日本基督教団松崎教会牧師
佐藤 範明 読売新聞那須塩原支局担当
田坂 興亜 元アジア学院 理事長・校長
飯沼 淳子 那須友の会

監事

船津 祥(5月まで) (財)とちぎYMCA 理事長
原田 時近(5月まで) (株)ナスハウス工業代表取締役
大屋 秀之 矢板学園矢板幼稚園事務長
渋井 正明 元(株)渡辺美智雄経営センター部長

評議員

丹羽 章(5月まで) 獨協医学大学名誉教授
社会福祉法人一麦福祉会
理事長
山田 正(5月まで) 元三井不動産(株)専務取締役
大庭 セイラ(5月まで) 在日本インターボード宣教師社団代表理事
植田 仁太郎(5月まで) 前日本聖公会東京教区主教
スティーブン・カッティング(5月まで) アジア学院職員
興石 勇 前日本キリスト教協議会議長・
日本聖公会志木聖母教会司祭
福田 龍介 東京ユニオンチャーチ役員
久世 了 前(学)明治学院学院長
星野 正興 日本基督教団松崎教会牧師
門脇 英晴 (株)日本総合研究所特別顧問
山根 正彦 (学)香川栄養学園理事・総務部長
菊地 功 カトリック新潟司教区司教
福本 光夫 (学)西那須野幼稚園理事長
宮崎 幸雄 (財)日本YMCA 同盟名誉主事
山本 俊正 (学)関西学院大学教授
李 秀夫 (株)インテック代表取締役
菅野 勝久 日本基督教団西那須野教会牧師
飯沼 淳子 那須友の会
山口 和枝 全国友の会中央部
石川 宗朗 霜里農場
長嶋 清 元アジア学院職員
米田 ミチル 聖母訪問会総長
荒川 朋子 副校長、事務局長
遠藤 抱一 法人財務室長
荒川 治 農場長
佐久間 郁(6月1日から) ARISA 事務局長

職員

専任職員

大津 健一
荒川 朋子
荒川 治
大柳 由紀子
バン・ヒョンウック
ティモシー・B・アパウ
ジョナサン・マッカーリー
スティーブン・カッティング
ギルバート・ホガング
壁谷 早苗(5月まで)
山口 敦史

名誉学院長

高見 敏弘
校長
事務局長・副校長
農場長
教務主任
共同体生活
共同体生活
共同体生活
国際協力
畜産
畜産
野菜・作物

大谷 崇
ザチボル・ラコー(1月から)
中村 朱里
佐久間 郁
佐藤 裕美
藤嶋 トーマス 逸生
山下 崇
畜産
国際業務・給食
学生選考
後援会事務局長
販売・庶務
広報
那須セミナーハウス主事

非常勤職員

福島 昌代
君嶋 満恵
田中 順子
直井 由美子
食品加工
会計
図書
給食

嘱託職員

遠藤 抱一 法人財務室長

アジア学院の コミュニティ メンバー

community
members

長期ボランティア

ニコル・グループ(米) 広報、農場
ハンナ・シンブソン(米) 農場
ツァイ・チャン(シンガポール) 給食
レイチェル・ブラー(米) 農場、国際協力
大室 さくら 農場
三野宮 恵 給食
目次 立樹 農場
橋本 富夫 農場
ジェニファ・ナイト(米) 給食
ダグレス・ナイト(米) 農場
ビル・ブランドフォード(米) 農場
ケリー・シェイファ(米) 学生選考
ピーター・スパイサー(米) 農場
アンナ・スパイサー(米) 農場
阿部 久 農場

ボラン ティア

川田 継夫 農場
畠澤 明枝 総務
通いのボランティア
伏見 卓 営繕
戸川 勝安 営繕
小野崎 仁 営繕、農場
石山 幸一 農場
戸川 昌子 食品加工
高村 京子 給食、食品加工、総務
鈴木 由美 データベース管理
長瀬 みか 図書
宮下 保 営繕、農場
鄭 鎮海 総務、プティーク

榎 尚子 補助活動
マッカーリー里美 給食、食品加工
伊藤 正 農場
加藤 篤彦 営繕
佐原 市郎 事務
久保 瞳 給食
村上 和子 給食
青山 登志彦 車輛修繕
安田 修平 農場
平山 隆 農場
藤本 和子 給食
藤岡 順子 給食
高 聲振 農場
川村 麦 農場
上田 英二 農場

国内

教会関係

東京ユニオンチャーチ
ウエスト東京ユニオンチャーチ
神戸ユニオンチャーチ
国際基督教大学教会
在日本インターボード宣教師社団
在日大韓基督教会
日本ナザレン教団
(カ) 援助修道会
(カ) 大田原教会
(キ) 柏木教会
(キ) 鎌倉栄光教会
(教) 阿佐ヶ谷教会
(教) 希望ヶ丘教会
(教) 西那須野教会
(教) ひばりが丘教会
(教) 代々木上原教会
(教) 霊南坂教会
(教) 早稲田教会
(公) 聖アンデレ教会
(公) 聖オルバン教会
(公) 東京聖三一教会
(公) 東京教区事務所

学校

栃木県立宇都宮北高等学校
(学) 立教女学院
(学) 青山学院中高等部
(学) 共愛学園中学校・高等学校
(学) 恵泉女学園大学キリスト教センター
(学) 敬和学園高等学校
(学) 東洋英和女学院中高部
(学) 明治学院
(学) 明治学院中学校・東村山高校
(学) さつき幼稚園

諸団体

IKE 設計開発事務所
SUPA 西アフリカの人達を支援する会
アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)
アジア婦人友好会
アメリカンスクール・インジャパン
一般財団法人アジア農村交流協会
草の根ネット麦の会
(公財) ウェスレーファンデーション
全国友の会中央部
全国友の会北関東部
(公財) 全国友の会振興財団
土浦友の会
横浜友の会
東京霞ヶ関ライオンズクラブ

栃木県経済同友会
日本キリスト教協議会
日本福音ルーテル社団
立正佼成会那須教会
ワールドファミリー基金
わかちあいプロジェクト
(医社) サマリヤ会
(株) こぐま社
(株) サンケイスーパー
(株) 鳶ネットワーク
(財) あしぎん国際交流財団
(財) 地球市民財団
(財) 新倉会
(社) スコーレ家庭教育振興協会
(特活) 国際協力 NGO センター
(有) 鶴見建材工業

奨学金

アメリカン・スクール・イン・
ジャパン
一般財団法人アジア農村交流協会
栃木県経済同友会
日本キリスト教協議会
(カ) 聖コロバン会
(公) 東京聖テモテ教会 聖テモテ
奉仕奨学金委員会
(財) 地球市民財団
(財) 新倉会
(カ) 聖心会 (あけの星修道院)
(公益信託) 久保田豊基金
(財) ロータリー米山記念奨学会
日本学生支援機構 (JASSO)

災害復興募金

日本キリスト教協議会
日本基督教団
ワールドファミリー基金
(カ) 聖コロバン会
(公) 聖オルバン教会
(公) 日本聖公会婦人会

支援者 団体 一覧

donors

(10万円以上の寄付)

海外

教会関係

米国合同教会・キリスト教会共同世界宣教
カナダ合同教会
合同メソジスト教会救援委員会

諸団体

北米アジア学院後援会 (AFARI)
欧州アジア学院後援会 (EFARI)

奨学金

United Methodist Women
米国合同教会・キリスト教会共同世界宣教
The Hartstra Foundation (オランダ)
英国メソジスト教会
世界教会協議会
Mission 21 (スイス)
合同メソジスト教会救援委員会 (UMCOR)
ナザレン教団国際救援委員会
カナダ合同教会

災害復興募金

北米アジア学院後援会 (AFARI)
Diakonia Katastrophenhilfen (ドイツ)
米国カリタス (Catholic Relief Service)
合同メソジスト教会世界宣教 (GBGM)
韓国メソジスト教会
アメリカ合衆国長老教会
米国合同教会・キリスト教会共同世界宣教
合同メソジスト教会救援委員会 (UMCOR)



消費収支 計算書

statement of
financial activities

2012/4/1
～2013/3/31

会計

finances

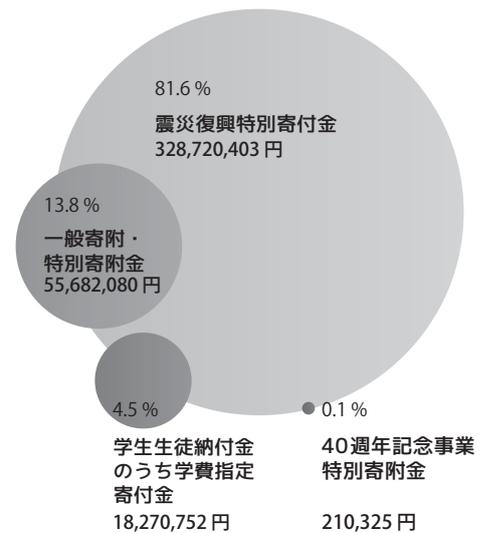
消費収入の部

	2012年予算	2012年決算	2013年予算
学生生徒等納付金 (*1)	32,207,500	24,166,752	32,205,600
授業料	3,868,000	3,574,000	3,861,000
入学金	224,000	227,000	225,000
食事費	1,032,000	1,047,500	1,113,000
施設設備資金	1,032,000	1,047,500	1,113,000
国内団体学費指定寄付金	12,608,000	10,524,000	15,608,000
海外団体学費指定寄付金	12,621,000	7,174,089	10,055,600
渡航費	822,500	572,663	230,000
手数料	22,000	20,800	32,000
寄付金	250,900,000	384,612,808	191,770,000
国内国外一般寄付金	24,900,000	45,406,209	46,520,000
アジア学院後援会	15,000,000	2,275,871	0
40周年記念事業特別寄付金	1,000,000	210,325	5,000,000
特別寄付金	210,000,000	336,720,403	140,250,000
(内災害復旧特別寄付金)	(200,000,000)	(328,720,403)	(135,250,000)
補助金 (*2)	2,480,000	26,255,586	12,314,500
資産運用収入	1,650,000	2,304,181	2,142,000
受取利息・配当金	50,000	110,781	70,000
施設設備利用料	1,600,000	2,193,400	2,072,000
補助活動収入 (*3)	20,028,000	20,962,384	27,620,000
雑収入	1,850,000	11,202,690	855,000
帰属収入合計	309,137,500	469,525,201	266,939,100
基本金組入合計	0	-177,874,531	0
消費収入の部合計	309,137,500	291,650,670	266,939,100

(単位：円)

寄付金の種類別割合

合計 402,883,560



消費支出の部 (*4)

人件費	66,500,000	67,762,047	68,411,224
教育研究費	20,060,000	22,778,669	19,795,385
管理経費	50,772,080	59,250,675	76,745,500
(内災害復旧費)	(20,150,000)	(20,799,253)	(21,030,000)
借入金等利息	1,088,000	1,481,899	1,037,400
資産処分差額	0	41,216,069	0
有価証券処分差額	0	1,258,812	0
予備費	5,000,000	0	6,000,000
固定資産廃棄差額	0	39,957,257	0
消費支出の部合計	143,420,080	192,489,359	171,989,509
当年度消費収入超過額	165,717,420	99,161,311	94,949,591
前年度繰り越し消費支出超過額	170,491,913	170,491,913	71,330,602
翌年度繰り越し消費収入超過額			23,618,989
翌年度繰り越し消費支出超過額	4,774,493	71,330,602	

【注記】

(*1) 学生納付金には次のものが含まれる。
・入学金：日本人学生納付金および海外学生に対する奨学金のうち入学金として指定されたもの

・食事費：日本人学生納付金および海外学生に対する奨学金のうち食事費として指定されたもの

・施設設備資金：日本人学生納付金および海外学生に対する奨学金のうち寮費・施設設備資金として指定されたもの

(*2) 災害復旧補助金及び再生エネルギー熱利用加速化支援対策事業助成金

(*3) 農産物、加工食品、民芸品等の販売、プログラム等による収入。

(*4) 2012年度消費支出の内訳については、右頁を参照。

学院内の農産物について

学院の農場の生産物は補助活動として販売されるほか、学院の食材及び加工食品の材料としても用いられている。主な農産物の生産量は、米7.3トン、小麦粉1.6トン、芋類が3.2トン、豆類1.7トン、タマネギとニンニクで1トン、にんじん1.1トン、豚肉64頭、鶏384羽、卵87,581個、魚125kgである。これら上記の主な農産

物の市場価格の総額は1,600万円相当である。2011年度は福島第一原発の放射能漏れ事故の影響を受け、例年比で60%減の生産量であったが、2012年度はほぼ例年の生産量に回復した。米は昨年引き続き東北ヘルプを通じて被災地に600kg寄付した。

貸借 対照表

statement of
financial position

2013/3/31

資産の部

(単位：円)

	本年度末	前年度末
固定資産	807,511,597	592,771,401
有形固定資産	701,823,947	486,601,895
（内建物仮勘定）	66,395,365	87,280,267
電話加入権	161,600	161,600
出資金	154,000	154,000
有価証券	64,930	64,930
預託金	7,760	4,680
退職金引当特定預金	4,145,435	3,000,000
40周年記念事業特定預金	496,853	485,834
奨学基金特定預金	72,381,072	72,298,462
奨学金特定預金	28,276,000	30,000,000
流動資産	142,563,863	83,673,634
現金預金	71,437,044	61,497,405
未収入金	14,093,986	1,170,760
貯蔵品	1,869,000	6,935,449
販売用品	2,726,138	1,389,794
有価証券	47,974,809	9,560,433
前払金	4,160,583	3,017,253
仮払金	302,303	102,540
資産の部合計	950,075,460	676,445,035

負債の部

固定負債	110,620,000	113,940,000
長期借入金	64,220,000	70,050,000
学校債	43,400,000	43,890,000
流動負債	97,502,692	97,588,109
短期借入金	67,830,000	67,000,000
学校債	15,600,000	20,260,000
未払金	3,798,446	1,788,666
未払金消費税	411,600	316,700
前受金	9,294,006	7,561,758
預り金	568,640	660,985
仮受金		- 0
負債の部合計	208,122,692	211,528,109

基本金の部

基本金の部合計	813,283,370	635,408,839
---------	-------------	-------------

消費収支差額の部

翌年度繰越消費収入超過額	-71,330,602	-170,491,913
内今年度消費収入超過額	99,161,311	106,661,863

負債の部・基本金の部・
及び消費収支差額の部合計

950,075,460 676,445,035

左頁の注記の続き

(* 6) 2012 年度の消費支出の内訳

人件費支出	67,762,047
教員人件費	26,987,377
職員人件費	31,580,886
その他人件費	9,193,784
教育研究費	22,778,669
奨学費	4,382,590
光熱水費	743,308
見学費	2,335,449
実験実習費	4,773,351
学生交通費	77,251
学生渡航費	2,420,809
教材費	140,664
研究費	337,349
学生厚生費	725,652
職員研修費	307,706
卒業生同窓会支援費	100,000
特別講師費	753,600
雑費	508,800
貯蔵品の振替差額	5,066,449

管理経費

59,250,675

消耗品費	341,014
光熱水費	3,391,854
旅費交通費	574,198
募金費	1,896,533
車両燃料費	1,459,490
福利費	9,800
通信運搬費	721,510
事務費	2,673,864
出版物費	383,759
車両修繕費	2,510,669
営繕費	316,560
損害保険料	636,900
賃借料	1,443,458
公租公課	513,800
諸会費	195,312
会議費	304,950
報酬委託手数料	1,434,260
補助活動収入原価	1,974,175
行事費	40,000
渉外費	170,000
雑費・災害復旧費	20,835,983
減価償却費	17,422,586
借入金等利息支出	1,481,899
借入金利息支出	783,499
学校債利息支出	698,400
資産処分差額	41,216,069
有価証券処分差額	1,258,812
固定資産廃棄差額	39,957,257
消費支出の部合計	192,489,359

監査報告

学校法人アジア学院寄附行為第7条の規定に基づき、
2012年度の事業および会計の状況について監査した結果、
適性に執行されたものと認めます。

2013年度 5月8日
学校法人 アジア学院

渋井 正昭 監事

渋井 正昭

大屋 秀之 監事

大屋 秀之



農村指導者
研修

rural leaders
training course
participants

2012年度
卒業生

the 2012
graduates

- 【ブラジル】** 1) ジョエルマ・ゴメス・デ・ケイロス パラナ農地改革 中央協同組合
- 【カメルーン】** 2) ボンガジウム・バンラ・ジョセフ ブイ代替医療を推進する会
- 【コンゴ民主共和国】** 3) カヴィラ・カニキ・サロメ 調和的発展研修所
- 【東ティモール】** 4) ジュリアオン・ヌネス・ジョセ ラファエラ東ティモール基金
- 【ハイチ】** 6) ネアランド・パティション ハイチ メソジスト教会
- 【インド】** 7) アーダルシュ・C・アラルゴダナ コーグ農村開発機構 (CORD)
- 【インドネシア】** 9) マーガレット・マルタ・スィアニバル バタックプロテスタント教会 (HKBP)
- 10) ソニマン・ワルウ ホリアナ基金
- 【日本】** 11) 石田 堅吾 12) 武野 裕太
- 【リベリア】** 13) アレクサンダー・サタデイ・ケルクラ チャーチ・エイド法人
- 14) コムフォート・ヴァーブラ・マッカーシー キリスト教共同体
- 【マラウイ】** 15) テイト・ハーバート・レズイレ マラウイ聖公会 シレ高地地区
- 16) キャサリン・ンタンボ リビングストニア長老会エイズプログラム
- 【マレーシア】** 17) ヴェニ・エスター・ダニエル サバ プロテスタント教会
- 【ミャンマー】** 18) サン・ビク・ジェム 北部ミャンマーメソジスト教会
- 19) アッ・カ・ティ ミャウミャー地域協会
- 20) トウン・ルイン 仏教徒青年エンパワーメントプログラム
- 21) タウン・スィー リス バプテスト同盟
- 【パプアニューギニア】** 22) ジョセフ・コラ ナザレン教会
- 【フィリピン】** 23) ウィルソン・ディカグ・イグナシオ アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団中央ルソン管轄区
- 24) ドルフィ・ティンダアン・リタワン ヌエバピスカヤ 環境・地域開発法人
- 【スリランカ】** 25) M.P.N.H マナディパティ サービス・シビル・インターナショナル・スリランカ
- 26) ウェリデニエガダラ・ニシャーント・グナラトネ スリランカ メソジスト教会
- 【ウガンダ】** 27) エマニュエル・センピラ 聖パトリック 総合開発センター

研究科生

training assistant

【インドネシア】 フェニー・ジュリタ
バタックプロテスタント教会 (HKBP)

【フィリピン】 ルデス・オウグスト・シソン
コーディリエラ・グリーン・ネットワーク

卒業生
インターン

graduate intern

【日本】 木戸 康友